

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393300138		
法人名	株式会社 アスク		
事業所名	グループホームみかんの木 (鶴ユニット)		
所在地	蒲都市金平町堀ノ内2-2		
自己評価作成日	令和5年8月22日	評価結果市町村受理日	令和5年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;jiryoivoCd=2393300138-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;jiryoivoCd=2393300138-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和5年9月29日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・東に三河湾、西には三ヶ根山と静かな場所に位置し、建物の南には自然の光と空気を全身で感じられる開放感ある憩いのテラスがあり、隣接している小学校からは、元気な子供たちの声が気持ちよく響いてくる環境にあります。近くには、岩上神社があり、散歩を兼ねてお参りに行く習慣を根付かせて、自立した生活が少しでも維持出来るように取り組んでおります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

認知症を抱えていても「それまでの暮らしの継続」という視点を貫き、食事の準備や片付け、身の回りの清潔、趣味活動など、可能な限り出来ることは自分でおこない、出来ないことをお手伝いする支援で、穏やかな落ち着いた暮らしが紡がれている事業所です。9割以上の家族とSNSでつながり、災害時における連絡手段としての確立だけでなく、備品補充の願いからイベントのお知らせまで、普段の生活の様子がわかる写真や動画を添え元気な姿をリアルタイムで伝えています。家族が都合のよい時間に確認できる利便性を享受するとともに、円滑なコミュニケーションに役立つツールとして喜ばれています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員の目につく多目的ホールに掲示している。	理念とともに介護指針として示されたみかんの木のイラストには、信頼関係という幹のもとで笑顔や交流、楽しみや癒しといった実結ばれています。入居前の生活リズムを継続し、毎日の体調管理で一人ひとりの個性に合わせた暮らしが担保されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・利用者との外出時(散歩等)には、近所の方と挨拶を交わし、近隣にある神社へのお参り。	新型コロナウイルス感染症が5類移行となっても感染者数が収まる心配がない中で、積極的交流は見合わせていますが、近くの神社までの散歩は励行しています。また、グループホームでの仕事に興味を持つ高校生のボランティアを受け入れ、介護人材の育成の一翼を担っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・近隣の方と顔なじみになり、事業所の内容への理解を得られるように積極的に関わりを持てるしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、行事報告、利用者様の状況報告を行い、委員の方からの意見等をいただき、サービス向上に繋げていけるよう努めている。(感染対策の為にしばらく休止・書面にて対応)	ハイリスクの利用者の体調を鑑み、調整を図りながら書面開催を継続しています。利用者状況、活動報告、事故・ヒヤリハット報告を記載した報告書を、市長寿課、地域包括支援センター、民生委員、区総代、常会長へ「ご意見などございましたら」の言葉を添えて送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市担当者や地域包括の職員に運営推進会議に参加してもらい、事業所の状況を把握して頂き、協力関係を築いていく。(コロナ禍により中止)	運営指導における指摘事項は、改善指導に従って速やかに書面を整備しています。書面開催としている運営推進会議では活動状況報告書を提出して書面確認の印を得ており、感染症や災害関連情報など行政から配信されるメールは必ずチェックしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・『身体拘束をしないケア』を理解するよう周知し取り組んでいる。日頃の職員の声掛けに注視している。	身体拘束等適正化対策検討委員会を定期開催し、年2回の研修も滞りなく実施されています。比較的自立度の高い利用者が多く、ユニット入口は常に開放されており、委員会で再確認する「身体拘束廃止を進めるためのチェックポイント」から拘束のないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・日頃の職員の入居者への声掛けを注視して教育している。申し送りの際にも伝達を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・内部、外部研修で権利擁護に関する制度の理解に努めている。必要性のある入居者があれば地域包括支援センター・社会福祉協議会との連携を取り、支援できるよう努めていきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時に、契約内容を十分説明し、不安や疑問、意向を聞きながら、納得していただき同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時や電話などで、家族の意向や要望等を聞いている。	災害時における連絡手段として確立したSNSで9割以上の家族とつながっています。事業所通信に代わり、利用者の日常や連絡事項をタイムリーに伝える手段としても活用し、写真や動画がリアルタイムで送られ、家族との円滑なコミュニケーションに役立っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・不定期での面談や都度、職員からの意見、提案を聞き運営に反映させている。代表者、管理者は職員一人ひとりの意見を聴く体制を取っている。	職員からの意見は活発で、ユニット内の器具修理から玄関先に設置したベンチの購入に至るまで逐一管理者へ報告が上がり、スピード感をもった対処がなされています。希望シフト調整、有給取得100%の実績は、生き生き働く職員の笑顔に実っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者とは、月1回の役員会での報告や相談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修などへの積極的な参加を促し、受講費の補助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・未達		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前と後にも本人やご家族から、状態、意向を伺い、初期段階で本人が困っていること等、時間をかけ(必要であれば面談や施設見学の回数を多く取る等)聞くように努め、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会時等にご家族から要望や不安などを聴く機会を設けて、実施している。実施後も経過内容を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居希望や見学時・入居後に、本人や家族の希望を踏まえて、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応をしている場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は暮らしを共にする者として日常生活(掃除・洗濯・買い物等)を営む為に一緒に取り組むようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月のお便りやいつでも面会や外出、できるよう配慮し、ご本人とご家族の絆を大切に、共に支えていく関係を築くよう努めている。(感染対策の為、状況により対応)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・緊急事態宣言下においても、面会禁止にすることなく、希望があれば受け入れをおこなっている。昨年より、外泊・外出・外食・面会などすべて解禁としています。	面会は「事前連絡、玄関入口で15分程度」として受け付けています。人数制限を解除したことで孫やひ孫を連れた面会もあり、久しぶりの対面で喜びの声が聞かれています。本人の「自宅に帰りたい」、家族の「昼食を一緒に～」が叶えられ、コロナ禍以前の生活が戻りつつあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・相性が合わない方もおられるが、職員が間に入ることで孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるように橋渡しを行い支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後も、気軽に訪ねて頂いたり、要望があれば、いつでも相談を受けるなどの体制づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中での利用者一人ひとりの思いを汲み取ったり聴いたりし得た情報は記録(タブレット)と紙面にて申し送り、職員間で共有し本人の希望に繋げている。	清掃や洗濯物たたみ、食事の準備など、できる役割を粛々とこなす日々の営みから、ふと発した言葉を聴き取り、実現しています。「パンが食べたい」という要望から始めたセレクト昼食「パンバイキング」もそのひとつで、毎月利用者の目と味覚を楽しませています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居が決まり早い段階に、本人、家族から生活歴、生活環境これまでの経緯などを伺い、利用していた事業所の情報提供を頂き、一人ひとりの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・施設の『一日の流れ』はあり、一日を過ごしているが、個別援助を多く取り入れるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・現状に合った介護計画を作成するようにしている。	介護支援専門員、計画作成がそれぞれフロアを担当し、サービスの提供記録と職員からの聞き取りにより介護計画作成～モニタリング～見直しまでを担っています。サービス担当者会議は、新型コロナウイルスが5類移行となった今年度より家族も交えておこなっています。	チームケアの一員として家族による支援や、社会資源も視野に入れた介護計画が作成されることを期待いたします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子で状態の変化、気づきは申し送り(タブレット)を活用し、ケアの統一を図り介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・認知症症状への対応だったり、急変だったり、その時々の変化の速さがあるが、幾度の課題に取り組むことでその時々に対応に慌てることなく対応することが大切だと周知し取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域との共働はコロナ禍を経てほぼストップした状態となっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用時に当事業所の協力医療機関に主治医の変更、もしくは今までの医療機関を継続するなどの選択をしていただいている。2回/4週内科医の訪問診療を受けており必要時は施設長が主治医との連携を図っている。当協力医以外の受診は家族対応をお願いしている。	馴染みのかかりつけ医を継続する利用者が1名おり、受診の際は家族をお願いしています。協力医による訪問診療には、週3日勤務して体調管理をおこなっている看護師が立ち会い、結果は「往診状況」に記録するとともに、特段変わったことがあればすぐに家族に伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職員は日々の心身状態を観察、記録し、施設長・ケアマネに報告し指示を仰ぐとともに、必要時には主治医に報告し、受診できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時には家族や医療機関より情報提供していただき、利用者及びご家族に安心して頂けるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用契約時と入居後も折に触れて、説明している。ご本人と家族の意向を汲み取れるように話し合いを持って頂けるように取り組んでいる。	契約時には「重度化に係る指針」に沿って説明し、食事摂取ができなくなったり、医療が必要となった場合には医師の診断とともに話し合いの場をもち、事業所でできること・できないことに理解を得て、本人や家族にとってよりよい選択ができるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時対応マニュアルを作成し対応している。事故発生時にはカンファレンス、会議等で、原因究明し随時見直しを図っている。又、急変時の勉強会を折に触れ行うようにしている。急変時には、全員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回火災想定避難訓練を予定している。(4月実施)防火管理会社の助言、指導の下を行っている。	夜間想定も含め、年2回の法定訓練を実施しています。利用者のほとんどが歩行による移動が可能で、屋外への避難に要する時間を測定、把握しています。また、年間研修計画に「非常災害時の対応に関する研修」「業務継続研修」を組み入れて学んでいます。	業務継続計画策定の義務化にともない、その周知とともに運用を期待いたします。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者様に尊厳ある声掛け、言葉使い、態度で対応している。	本年度よりオンライン研修の仕組みを整備し、年間研修計画に「プライバシー保護の取組み」「接遇」を取り入れ全ての職員に学びの機会を確保しています。認知症を抱えていても「それまでの暮らしの継続」という視点を貫き、出来ないことをお手伝いするサポートに専念しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者への丁寧な声掛けと選択や同意を得るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個人のペースに合わせ、施設側の都合に合わせた運営にならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・お肌の手入れや化粧、美容などの身なりを整える時間を持つように接している。外出を増やして周りを意識するような機会を持ちように働き掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・なるべく一人ひとりの食べたいものなど聞きながら献立するが、好みの統一は難しい。調理しながら出来る料理の話題で調理時間から楽しく食事ができるよう配慮している。又、食事に集中していただくためBGMに音楽を流している。	クラシック音楽が流れる落ち着いた食事風景です。3食湯煎で調理品を提供していますが、誕生日にはお赤飯を添え松花堂風に仕立てたり、手作り献立の日も設けています。一昨年より月に一度の「和菓子と抹茶の日」「パンバイキング」を継続し、利用者から好評を博しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ご本人の適量を知り、的確なカロリーにこだわらず家庭料理で摂取できるように食事・水分は記録で確認をしながら摂るように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、やり忘れのないように洗面台にセットし、一人ひとりの歯磨きは見守りを含め、確認を行っている。毎夕食後には洗浄して、清潔を保つようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ADL及び排尿や排便リズムを考慮した、声掛け、見守りと介助を行い自立に向けた支援を行っている。	タブレットによる記録の管理で、一人ひとりの排便リズムを把握した失敗のない援助がおこなわれ、夜間のトイレが心配な利用者にはポータブルトイレの設置が安眠につながった例もあります。下剤の処方にも頼らず、バナナやセンナ茶の活用で便秘対策としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・日常生活でのリハビリやラジオ体操などを日課として、水分も摂取できる時には、少しずつでも取っていただくようにしている。排便カレンダーを活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・毎日9:00と15:00及び入浴前(昼食後)にバイタル測定し体調、その日の気分によってに支援している。	週2回を目安としていますが、「毎日シャワーを浴びたい」といった要望にも応えています。菖蒲湯や柚子湯など季節の変わり湯や入浴剤も取り揃え、冬期には就寝前に足浴で温まる配慮もあります。入浴拒否には職員の声かけを工夫したり、時間や日程の変更で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活パターンに合わせてお昼寝や就寝時間を状況に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・投薬カレンダーに個々の薬を入れてあり、薬剤師と連携して支援している。薬の説明書もファイルしてあり、主治医による薬の変更は、データ修正して、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日常生活での共同の役割(掃除・洗濯・料理)や趣味の生け花・お茶を取り入れたり、園芸・アイボなどを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご本人や家族からの外出希望などを可能な限り実施している。具体的には、近隣の神社や海岸、野山へのドライブなどの利用者様の自宅など外出できるように支援している。	桜が美しい神社までの散歩をはじめ家族との外食や、化粧品、お菓子を買うために薬局やコンビニへ出かけています。形原温泉あじさいの里やコスモス畑など季節の花が咲きそろう時期にはドライブを計画する日もあり、本人の外出意欲に沿った支援がなされています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・原則、金銭の管理は施設では行わない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族の了解の元、電話をかけたいと言われれば、キッチンに設置してある電話を使って頂いている。手紙を書きたいと要望があった時には、便箋や封筒をお渡しし、やり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・南側に大きな窓があり、自然な光と季節を感じられる共有空間として活かしている。	玄関では、管理者が手掛けた繊細な切り絵が季節に合ったデザインで来客を出迎え、利用者と一緒に手入れする花壇には四季折々の花が植えられて、リビングにも切り花として彩を添えています。「持ち込まない」を原則に徹底した感染対策でクラスターも発生していません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・安全面に配慮し、異なったテーブルを配置して落ち着いた空間になるように常に考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご本人が使い慣れた家具や持ち物(生け花・お茶・お位牌等)をお願いしている。	ダンスや仏壇、机、椅子、家族の写真が持ち込まれ、本人と家族が相談してセッティングし職員は動線に配慮しています。趣味の竹細工を継続する人は、耳かきや小物入れなどの作品作りに熱心に取り組み、使い終わった刃物は職員管理として預かっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内部はバリアフリー、手すり、浴室内、トイレ等は、残存機能が活かせるようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393300138		
法人名	株式会社 アスク		
事業所名	グループホームみかんの木 (亀ユニット)		
所在地	蒲都市金平町堀ノ内2-2		
自己評価作成日	令和5年8月22日	評価結果市町村受理日	令和5年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&amp;jirvosyoCd=2393300138-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&amp;jirvosyoCd=2393300138-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和5年9月29日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・東に三河湾、西には三ヶ根山と静かな場所に位置し、建物の南には自然の光と空気を全身で感じられる開放感ある憩いのテラスがあり、隣接している小学校からは、元気な子供たちの声が気持ちよく響いてくる環境にあります。近くには、岩上神社があり、散歩を兼ねてお参りに行く習慣を根付かせて、自立した生活が少しでも維持出来るように取り組んでおります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

認知症を抱えていても「それまでの暮らしの継続」という視点を貫き、食事の準備や片付け、身の回りの清潔、趣味活動など、可能な限り出来ることは自分でおこない、出来ないことをお手伝いする支援で、穏やかな落ち着いた暮らしが紡がれている事業所です。9割以上の家族とSNSでつながり、災害時における連絡手段としての確立だけでなく、備品補充の願いからイベントのお知らせまで、普段の生活の様子がわかる写真や動画を添え元気な姿をリアルタイムで伝えています。家族が都合のよい時間に確認できる利便性を享受するとともに、円滑なコミュニケーションに役立つツールとして喜ばれています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員の目につく多目的ホールに掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・利用者との外出時（散歩等）には、近所の方と挨拶を交わし、近隣にある神社へのお参り。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・近隣の方と顔なじみになり、事業所の内容への理解を得られるように積極的に関わりを持てるしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、行事報告、利用者様の状況報告を行い、委員の方からの意見等をいただき、サービス向上に繋げていけるよう努めている。（感染対策の為しばらく休止・書面にて対応）		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市担当者や地域包括の職員に運営推進会議に参加してもらい、事業所の状況を把握して頂き、協力関係を築いていく。（コロナ禍により中止）		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・『身体拘束をしないケア』を理解するよう周知し取り組んでいる。日頃の職員の声掛けに注視している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・日頃の職員の入居者への声掛けを注視して教育している。申し送りの際にも伝達を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・内部、外部研修で権利擁護に関する制度の理解に努めている。必要性のある入居者があれば地域包括支援センター・社会福祉協議会との連携を取り、支援できるよう努めていきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時に、契約内容を十分説明し、不安や疑問、意向を聞きながら、納得していただき同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時や電話などで、家族の意向や要望等を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・不定期での面談や都度、職員からの意見、提案を聞き運営に反映させている。代表者、管理者は職員一人ひとりの意見を聴く体制を取っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者とは、月1回の役員会での報告や相談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修などへの積極的な参加を促し、受講費の補助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・未達		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前と後にも本人やご家族から、状態、意向を伺い、初期段階で本人が困っていること等、時間をかけ(必要であれば面談や施設見学の回数を多く取る等)聞くように努め、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会時等にご家族から要望や不安などを聴く機会を設けて、実施している。実施後も経過内容を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居希望や見学時・入居後に、本人や家族の希望を踏まえて、必要としている支援を見極め、他のサービス利用を含めた対応をしている場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は暮らしを共にする者として日常生活(掃除・洗濯・買い物等)を営む為に一緒に取り組むようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月のお便りやいつでも面会や外出、できるよう配慮し、ご本人とご家族の絆を大切に、共に支えていく関係を築くよう努めている。(感染対策の為、状況により対応)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・緊急事態宣言下においても、面会禁止にすることなく、希望があれば受け入れをおこなっている。昨年より、外泊・外出・外食・面会などすべて解禁としています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・相性が合わない方もおられるが、職員が間に入ることで孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるように橋渡しを行い支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後も、気軽に訪ねて頂いたり、要望があれば、いつでも相談を受けるなどの体制づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中での利用者一人ひとりの思いを汲み取ったり聴いたりし得た情報は記録(タブレット)と紙面にて申し送り、職員間で共有し本人の希望に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居が決まり早い段階に、本人、家族から生活歴、生活環境これまでの経緯などを伺い、利用していた事業所の情報提供を頂き、一人ひとりの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・施設の『一日の流れ』はあり、一日を過ごしているが、個別援助を多く取り入れるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・現状に合った介護計画を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子で状態の変化、気づきは申し送り(タブレット)を活用し、ケアの統一を図り介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・認知症症状への対応だったり、急変だったり、その時々の変化の速さがあるが、幾度の課題に取り組むことでその時々への対応に慌てることなく対応することが大切だと周知し取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域との共働はコロナ禍を経てほぼストップした状態となっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用時に当事業所の協力医療機関に主治医の変更、もしくは今までの医療機関を継続するなどの選択をしていただいている。2回/4週内科医の訪問診療を受けており必要時は施設長が主治医との連携を図っている。当協力医以外の受診は家族対応をお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職員は日々の心身状態を観察、記録し、施設長・ケアマネに報告し指示を仰ぐとともに、必要時には主治医に報告し、受診できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時には家族や医療機関より情報提供していただき、利用者及びご家族に安心して頂けるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用契約時と入居後も折に触れて、説明している。ご本人と家族の意向を汲み取れるように話し合いを持って頂けるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時対応マニュアルを作成し対応している。事故発生時にはカンファレンス、会議等で、原因究明し随時見直しを図っている。又、急変時の勉強会を折に触れ行うようにしている。急変時には、全員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回火災想定避難訓練を予定している。(4月実施)防火管理会社の助言、指導の下行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者様に尊厳ある声掛け、言葉使い、態度で対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者への丁寧な声掛けと選択や同意を得るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個人のペースに合わせ、施設側の都合に合わせた運営にならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・お肌の手入れや化粧、美容などの身なりを整える時間を持つように接している。外出を増やして周りを意識するような機会を持ちように働き掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・なるべく一人ひとりの食べたいものなど聞きながら献立するが、好みの統一は難しい。調理しながら出来上がる料理の話題で調理時間から楽しく食事ができるよう配慮している。又、食事に集中していただくためBGMに音楽を流している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ご本人の適量を知り、的確なカロリーにこだわらず家庭料理で摂取できるようにし食事・水分は記録で確認をしながら摂れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、やり忘れのないように洗面台にセットし、一人ひとりの歯磨きは見守りを含め、確認を行っている。毎夕食後には洗浄して、清潔を保つようにしている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ADL及び排尿や排便リズムを考慮した、声掛け、見守りと介助を行い自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・日常生活でのリハビリやラジオ体操などを日課として、水分も摂取できる時には、少しずつでも取っていただくようにしている。排便カレンダーを活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・毎日9:00と15:00及び入浴前(昼食後)にバイタル測定し体調、その日の気分によってに支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活パターンに合わせてお昼寝や就寝時間を状況に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・投薬カレンダーに個々の薬を入れてあり、薬剤師と連携して支援している。薬の説明書もファイルしてあり、主治医による薬の変更は、データ修正して、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日常生活での共同の役割(掃除・洗濯・料理)や趣味の生け花・お茶を取り入れたり、園芸・アイボなどを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご本人や家族からの外出希望などを可能な限り実施している。具体的には、近隣の神社や海岸、野山へのドライブなどの利用者様の自宅など外出できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・原則、金銭の管理は施設では行わない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族の了解の元、電話をかけたいと言われれば、キッチンに設置してある電話を使って頂いている。手紙を書きたいと要望があった時には、便箋や封筒をお渡しし、やり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・南側に大きな窓があり、自然な光と季節を感じられる共有空間として活かしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・安全面に配慮し、異なったテーブルを配置して落ち着いた空間になるように常に考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご本人が使い慣れた家具や持ち物(生け花・お茶・お位牌等)をお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内部はバリアフリー、手すり、浴室内、トイレ等は、残存機能が活かせるようにしている。		